

国立競技場記念作品等設置等アドバイザー会議（第2回）議事概要

1. 日時：平成28年2月26日（金）10:00～11:20
2. 場所：日本スポーツ振興センター 特別会議室
3. 議事（1）最終保存場所（案）の検討について
（2）意見交換
4. 出席者 木島隆康アドバイザー、工藤晴也アドバイザー、杉山茂アドバイザー、藤岡洋保アドバイザー

5. 議事要旨

<議題1：最終保存場所（案）の検討について>

- 事務局から、配置のコンセプト案（資料1）、配置案（資料2）、壁画分割状況図（資料3）について説明した。
- 事務局から、以下の補足説明を行った。
 - ・作品のうち、今後、やむを得ず切り欠く可能性があるものについては、著作権者に事前に説明をし、理解を得ていること。
 - ・資料2の1枚目にある壁画2「ギリシャの女神」については、側面がカウンターとなる計画であるため、側面を全面的に保存するのは難しいこと。
 - ・地下2階のブロードキャストコンパウンドスペースについては、設計上、人工地盤の下となるため高さの条件が厳しい。①下部には雨水貯留槽があること、②半屋外空間であるため勾配の関係で暴風雨の際には流れ込む雨水がトレンチに入らぬよう勾配などを工夫する必要があること、③図面上の◎印は柱を示しており、それらをつなぐ梁を避け、更にクリアランスをとっておく必要があること、といった3つの条件がある。そのため、最終的にはやむを得ず、作品の一部を切り欠く可能性があることをご理解いただきたいこと。
- アドバイザーから、以下の発言があった。
 - ・前回会議での意見を反映・検討いただき、レガシーとしてわかりやすい展示計画ができていると思う。十分に受入れられるものである。個々の並びなどは、設計上、更に工夫できるものもあるのではないかと思う。
 - ・壁画については、切り欠いたら作品の印象が変わってしまう。作者は形や構図など神経を使って製作したはずであり、地下2階の天井高さ以上の壁画については、なんとか床を掘り下げて取り付けるべきである。また、野見宿禰とギリシャの女神の側面はカウンターが設置されるため作品を切り取る必要があるが、その場合は、切り取った部分を他の位置に組み替えるなどして活用し、なるべく多く残すような計画としてほしい。そのような例は海外の歴史的な壁画作品にもみられる。
 - ・彫刻については、1964年のレガシーを分かりやすくするためには、散在させな

いほうが良いと思う。1階東側は旧国立競技場を象徴する3作品でまとまっており、南側の3作品を北東側に寄せたほうが、よりまとまりが出ると思う。出陣学徒の碑と銘盤関係は良い配置だと思う。

- ・資料1のコンセプトについては異論ない。市民=多くの人が見ることができる、というコンセプトはとても良い。設置当時、壁画はスタジアムの中に配置され、入場した人しか見ることができなかったが、今回は公開性があり、新たに甦ったものとなってよいと思う。1階については西側が寂しい感じがするが、花壇などの別の形で演出することもできると思う。
- ・野見宿禰とギリシャの女神については、台座で30cm持ち上げるだけでもセレクトされ見栄えが良くなるが、難しいようであれば前面の床仕上げを白い大理石にするなどの対応を行うとすごく良くなる。取り外し前に壁画を高精細でデジタル化しているとのことなので、側面で絵が切り取られる開口部のドアやシャッターなどの立面に欠落部分をその周囲の絵に合わせてプリントするか、プロジェクションマッピングで再現するなどの工夫もできるのではないかと。
- ・資料1のコンセプトについては納得できるが、地下2階南西エリアの4枚の横長の壁画の並べ方については、絵のテーマを元にストーリーをつくるか、色味、構成などをもとにするか、なぜそういう並びになるのかについて説明ができた方がいい。「残すことは作ること」であり、既存のものに新たな価値付けをして（新たな文化価値をつくって）それをもとに後世に伝えることなので、そのような価値付けがなされるのが望ましい。彫刻に関しては、作品が多くの人が見られる場所に置かれるようなので、作者にとってもいいのではないかと。
- ・彫刻などは、現代の新しい作品も設置される可能性があり、現代という時代を表現する要素も必要ではないかと。
- ・来賓をもてなす方法は芸術作品以外にも他の方法もある。今後、新たな彫刻を設置するにしても、様々な問題や課題を解決していくことになるのではないかと。
- ・彫刻については、周辺に散在させるのではなく、エリアとしてのまとまりを持たせたほうが1964レガシーとして解り易くシンボリックである。現代作品が入った場合、新旧それぞれの作品を活かす配置が重要となってくるため、今回決めてしまうと言うより、例えば散在させるか、集合させるか2パターンを試案を作って、将来の周辺計画を含めて検討していくことで良いのではないかと。
- ・地下2階南西エリアの壁画の並びについては、デザイン、色彩、モチーフ、具象・抽象の組み合わせといった点は、資料2においてバランス良く配置しており、アドバイザー会議として異論はない。

○以下の質疑応答を行った。

- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画の並びについて、壁画4・13と壁画11・9を入れ替えると切り欠かなくて良いのではないかと、との質問があり、事

務局から、入れ替えると更に大きく切り欠くことになるため、今回の提案が最も切り欠く部分が少なくなる配置である、と回答した。

- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画前面の掘下げ部分については、90°ではなく、スロープの様にして角度をつけられないか、との質問があり、事務局から、技術的に難しいが設計時に少しでも見やすくなるよう工夫する、と回答した。アドバイザーからは、掘り下げるしかないならば、その中でもよりベターな方向にしたい旨、話があった。
- ・アドバイザーから、1階東ゲートの壁画設置面の設計について、カウンター幅ほどの程度か、との質問があり、事務局から、8m程度であり、詳細な設計はこれからであるが、壁画側面の下部については残しにくい、と回答した。
- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画上部にある人工地盤と下部の雨水貯留槽はスタジアム本体から独立しているか、また、柱のスパンは変更できるか、との質問があり、事務局から、独立している、スパンの変更は難しい、と回答した。
- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画設置コーナーが空間として暗いのであれば、セキュリティ対策も必要ではないか、との質問があり、事務局から、安全対策上必要なライトや監視カメラは設置する、と回答した。
- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画手前に設置する手すりについては、手すりにより作品が見えなくなるため、ガラス等による手すりとする等の工夫も必要ではないか、との質問があり、事務局から、今後見やすい工夫を行い、設置の時期については今後検討する、と回答した。
- ・アドバイザーから、1階東ゲートの壁画設置面について、カウンター周辺の壁画設置が竣工まで間に合わない場合、作品の角の部分（従前、正面から側面のエレベータに巻き込んでいる部分）までは絵としてのまとまりがあるので残し、切り取られたという印象を与えないよう、うまく処理してほしい、との質問があり、事務局から、次回イメージを提示して確認をいただきたい、と回答した。
- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画上部の人工地盤については、壁画の前のピットをあまり掘らないで済むようにするため、その上のスラブの梁成を小さくするための方法、ラーメン構造ではなく、たとえばワッフルスラブにするなどの方法が考えられないか、との質問があり、事務局から、構造の変更は工期の都合上、厳しいと考える、と回答した。
- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画下部の床下を全体的に下げ、掘りこみ部分を自然な形とすることはできないか、との質問があり、事務局から、更に地盤を掘り下げることになり、コストと工期の都合上、困難である、と回答した。

<議題2：意見交換>

○以下の質疑応答を行った。

- ・アドバイザーから、最終保存場所については、次回の1回の会議で最終決定するの

か、との質問があり、事務局から、彫刻については、新しい作品の設置等、今後協議する場面も出てくる可能性もあるが、現段階での方向性として次回の会議で決定する、と回答した。

○上記のやり取りを踏まえ、資料1及び資料2については、概ね了承を得て、次回、配置のストーリーと壁画設置面のイメージ図などの資料を会議に再度提示し、最終了承を得ることとした。